

17 COVID-19 透析患者に対する当院の取り組み

信州上田医療センター 診療部麻酔科 臨床工学室¹⁾信州上田医療センター腎臓内科²⁾富澤翔¹⁾野澤忠弘¹⁾高野一誉¹⁾児玉怜佑¹⁾山下雅弘¹⁾小沢柚乃¹⁾高橋寧史²⁾増田知恵²⁾望月知美²⁾

【背景】

COVID-19 の流行が始まってから3年以上が経過しているが、終息する気配を見せていない。上小地域においても感染者が多発しており、透析患者にも感染が広がっている。当院では COVID-19 透析患者受け入れ病床を確保し、COVID-19 病棟の個室で透析を行っている。今回 iPad を用いた Skype による患者の遠隔モニタリングを行いながら透析を行ったので報告する。

【対象】

2021 年 1 月～2022 年 6 月本院外来患者と他院より転院してきた COVID-19 感染透析患者 9 名。

【方法】

当院では病棟の 1 棟を COVID-19 患者専用病棟としている。COVID-19 透析患者が入院してきた場合、専用病棟の個室で透析を行うこととした。透析には個人用 RO 装置（JWS MJ-P I）、透析装置（日機装 DBG-03）を使用した。透析患者を遠隔でモニタリングするために iPad2 台でビデオ通話アプリ Skype を使用し、透析装置や患者穿刺部位等の観察と患者との意思疎通を行った。患者のバイタルはベッドサイドモニタ（フクダ電子 DS-8100）とセントラルモニタ（フクダ電子 DS-8700）で観察した。1 日に 2 クール透析を行う場合は、病棟内の 1 部屋を透析室とした。

透析室の配置は、オーバーテーブルに iPad 固定

問合せ先：富澤翔 〒386-0022

長野県上田市緑が丘 1-27-21 信州上田医療センター

診療部麻酔科 臨床工学室 (TEL0268-22-1890)

用アームを取り付け、iPad を設置した。ベッドの両サイドにベッドサイドモニタと透析装置を配置した。個人用 RO 装置は、壁側流し台横に設置した。原水は流し台の水道管から取水口をとりつけ取水した。（図 1）（図 2）



図 1 透析室内の透析監視装置, ベッドサイドモニタ, iPad の配置①



図 2 透析室内の透析監視装置, ベッドサイドモニタ, iPad の配置②

病棟ではCE1名がPPEを施し、専用病棟のスタッフと治療の開始、終了を行った。

治療中は専用病棟内のスタッフ待機所で待機し、患者のバイタルの確認、iPadの映像で患者の状況や透析装置の観察を行い電子カルテに記載した。(図3)



図3 COVID-19患者専用病棟内スタッフ待機所

本論文に関連して患者の同意は口頭で得た。

【結果】

2021年1月～2022年6月に9名の透析を行った。iPadを用いたSkypeでの遠隔モニタリングは、透析装置や患者穿刺部位等を広範囲に観察することができ、患者との意思疎通も問題なかった。

【考察】

Skypeは連続通話4時間、1日通話10時間、1ヶ月通算通話100時間の制限がある。感染患者が増えた場合は他のアプリを検討する必要がある。隔離病棟のスタッフは透析治療を経験したことのないスタッフがほとんどであったため治療の際には患者や医師を含めた意思疎通が大切だと感じた。

【結語】COVID-19病棟で遠隔モニタリングしながら透析を行った。感染患者との接触を必要最低限にすることによりスタッフに感染拡大することなく透析を行えた。

著者の利益相反は本論文に関連して特に申告無し。

【参考文献】

- 1) 新型コロナウイルス感染対策ワーキンググループ, 菊池勘. 新型コロナウイルス感染症に対する透析施設での対応について(第5報), 2020